

第1回桑名市国際化推進検討委員会 会議概要

日時・場所	平成28年2月5日（金）15:00～16:30 桑名市役所本庁舎 3階第二会議室
出席者	委員：4名（1名欠席） 市：4名 事務局：7名 傍聴：6名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 自己紹介 4. 役員選出 5. 検討事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 桑名市の国際化推進の検討について <ol style="list-style-type: none"> ①これまでの国際化推進の取組みについて ②桑名市の国際化推進について ③庁内の国際化推進に向けた取組みについて ④桑名市海外パートナー都市提携に向けて (2) 2016年ジュニア・サミット in 三重について 6. その他 7. 閉会
概要 (主な意見)	<ol style="list-style-type: none"> 5. 検討事項 <ol style="list-style-type: none"> ①～④の資料説明を受けて <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアサミット開催後は世界からかなり注目される。三重県、伊勢志摩とともに桑名という名がデビューする記念すべき年となるので、最初にしっかりしたイメージ・印象を出すべき。おかしなものを出すわけにはいかない。 ・自分の初来日の頃と比べると、海外と日本とのギャップが少なくなってきたと感じる。つまり、平準化が起こっている。何人（なにじん）ではなく地球人として生きられる時代になっていると思う。地球の中の桑名として生きていくためには、桑名に対し市民が誇りを持つことが必要。 ・ジュニアサミット終了後に、その流れを桑名の国際化にどうつなげるかというところが漠然としている。市民団体の強い思いと、漠然とした市（行政）の考えとがうまくすり合っていない。市民団体と一緒に活動をおこなっていくつもりなら、ビジョンをはっきりさせ

ないと市民団体の動きがぶれてしまう。

- ・桑名市として「どういうふうにしたいのか」をはっきりさせるべき。国際的な人材育成も観光都市形成もすべていきなり目指すのは難しい。軸足を定めてもらおうと市民団体も協同していきやすい。
- ・軸足は大事。「ジュニアサミットを開催した桑名」の名は一生残る。台湾にとって日本は憧れであり、高雄市は三重県と、台東市は伊賀市・志摩市と自治体間連携覚書（MOU）を締結している。サミットに参加できない台湾にとって「ジュニアサミットを開催した桑名」は憧れになりうる。台湾の中学高校でおこなわれている「訪日教育旅行」で桑名に来てもらうために、ジュニアサミットを活用すべき。ジュニアサミット終了後もサミットの後継となるもの（ポストジュニアサミット）をおこなってはどうか。
- ・「訪日教育旅行」は良い方法だと思う。「国・地域別訪日教育旅行受入実績（H25年度）」（出典：文科省）をみると、①台湾②韓国③米国④オーストラリアの順になっている。観光庁は今後（2020年までに）6万人に受入者を増やす目標を掲げている。愛知県の東邦高校が受け入れに力を入れている。官民一体の活動を目指すなら訪日教育旅行を核にしてはどうか。
- ・一般旅行としては、桑名の文化、歴史、食、祭り、リゾート、スポーツ、ヘルスツーリズムなどがキーワードとしてある。上げ馬神事などは外国人の興味がわくものだと思う。
- ・千葉県諏訪市は、訪日教育旅行に熱心に取り組んでいる。さまざまな魅力を持つ桑名市に訪日教育旅行に対するハンデはないので取り組んでいくべき。一般旅行については、受入側の考えることと訪問側の考えることを外さないやり方を考えることが必要。
- ・ジュニアサミットに参加できる子どもは限られている。来年や再来年に、そこに参加することができなかった子どもも自由に参加できる場があればいいと思う。
- ・外国と触れ合う経験がないと子どもは海外に興味を持たない。英語によるコミュニケーションでなくても、例えばサッカー交流などのほうがお互いに理解できたりもする。
- ・桑名に誇りを持つ子どもがいるだろうか。外国人の私が「桑名の歴史はすごい」というと子どもは不思議そうな顔をする。自分たちの住むまちを知る教育が届いていないのではないか。石取祭に行ったことのない子どももいる。自分のまちを知れば、海外にも発信したくなると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時代、世界と桑名の差は感じないようになってきている。壁がなくなっている。どこにでもプレステがあり、ちびまる子ちゃんを知っている。毎年、「桑名ジュニアサミット」を開催し、皆でゲームをしたり、サッカーをしてもよいのではないか。 →何度もそういうことを開催すれば、参加できる子どもが増えていく。子ども同士が繋がれば、親も目を向けるようになる。 ・私たちが知らないような場所に、海外ドラマやアニメの影響で外国から観光客が押し寄せている。また、高山市には13ヶ国語の案内看板が設置されている。外国人旅行者は夕食を街に出て取ることが多い。そこでおもてなしができるか、インフラが整っているか。インバウンドは「何が見られるかではなく、何が体験できるか」である。 ・桑名に住む日本国籍の子ども、外国籍の子どもと一緒に世界に向けて発信することが大事。 →子どもたちがサミットのレガシー（遺産）を引き継いでいくことが一番大事。 →海外ではボーイスカウトがとても活躍している。 →海外留学している息子の通っていた保育園は多国籍だった。その経験が外に目を向けるきっかけになったのかもしれない。そういう環境、土壌があってもいい。 →子どもは世界に壁がないことをもう知っている。ラインやスカイプでつながっていると外国にいるという感覚がなくなる。 ・桑名に住む外国人による料理を通じた文化交流の機会などを設けている。 →例えば、その人たちを桑名〇〇大使に任命するなど、一段上がった活動をしてもらえば、桑名に住む外国人も桑名に誇りを持つのではないか。 ・海外での旅行会社の役割としては、今までは各国への日本人の受け入れを主としてきたが、今は在外日本人やその国の人を日本または他国へ送り出すという役割になってきている。桑名への旅行商品を作っていくこともできるかもしれない。 ・本日は第1回目ということで、ここで何か答えを出すものではない。今日話し合ったことを今後の会議に反映させていきたい。
担当課	市長公室 政策経営課